



創立40周年記念誌

'99 TOTTORI JUNIOR CHAMBER INC.



社団法人 **鳥取青年会議所**

因幡市民の未来に向かって

輝く

INABA

因幡への想いが大きければ大きいほど、
その道は決して平坦ではないはずですが、
その反面、夢と希望に満ちたものであるはずです。
愛、夢、絆、そして、やさしさと勇気を持って、邁進したい。



法 鳥取青年会議所
理事長 山根 敏樹

ご挨拶

私ども(社)鳥取青年会議所は、本年創立40周年を迎えるに至りました。今から40年前の1959年(昭和34年)に、(社)米子青年会議所のスポンサーにより、この因幡の地に全国で156番目の青年会議所として誕生いたしました。以来40年間、愛するこの地域(まち)の為に活動を展開してこれましたのも、地域の皆様を始め、行政、友好団体、各地青年会議所の皆様など、多くの皆様のご支援、ご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

また、この40年間の歴史は、多くの先輩方の汗と涙と友情の歴史でもあります。このまちの未来の為に、その時々たゆまぬ努力を続けてこられた先輩諸兄に対し、創立40周年という節目の年を迎えるにあたり心より感謝の意を表すと共に、大変誇りに思うところがあります。

昨今、日本の経済状況は過去に経験がないほどの停滞を続け、出口の見えない閉塞感に包まれております。その様な中、物の豊かさ、経済成長のみを追い続けた時代が終焉し、心の豊かさ、生活の豊かさを大切にす時代へと大きな転換期を迎えているように思います。中央集権から地方分権へ、また、まちづくりにおいても官主導から民主導へと変化が求められている中で、我が国において真の地方自治を確立していくために、自立した市民づくりが以前にも増して求められる時代になったのではないのでしょうか。

本年(社)鳥取青年会議所のスローガンは、「**「夢計画'99輝く新因幡へ」**～因幡市民の未来に向けて!～としております。1900年代最後の年である今年を、新しい時代へのスタートの年として捉え、この因幡の大いなる“夢”を実現するための具体的な“実行計画”を模索して行く年と考えております。そして私たちの暮らすこの因幡が、いつまでも明るく豊かな社会であり続けるために、この40年の歴史を今後の活動の礎とし、多くの因幡市民の皆様方と共にパートナーシップを築きながら、更なる精進を重ねて行きたいと思っております。

最後になりますが、今後も力一杯因幡のまちづくりに邁進して行く所存でありますので、どうか引き続き(社)鳥取青年会議所に対しご理解並びにより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

祝 辞



鳥取県知事
片山 善博氏

鳥取青年会議所創立40周年を心からお慶び申し上げます。

鳥取青年会議所は、昭和34年の創立以来、次世代の担い手として、若者らしい発想と行動力を武器に、明るく豊かな社会を創造すべく、様々な活動を行って来られました。

なかでも、広域的なまちづくり運動として因幡田園都市構想を提唱し、既存の行政枠を越えた広域的な連携の中で「因幡」地域を一つの文化圏としてとらえ、地域の青少年の健全育成のためのイベントの開催、社会福祉施設の合同運動会や老人生きがい対策の実施など、様々な角度でまちづくりに取り組まれ、地域社会の発展と文化の向上に大きく貢献され、各方面から高く評価されています。

今日までの数々の御功績に対し、深く敬意を表し、感謝申し上げます。

さて、私はこの4月に鳥取県知事に就任いたしました。新しい県政では、県民の皆様の英和と力を結集し、元気にぎやかな、鳥取県を築いていきたいと考えております。

ご承知のとおり、最近のわが国の社会は少子高齢化、経済のソフト化・サービス化など大きく変化しています。

このような中であって、地域社会を発展させていくためには、斬新な発想と行動力をもって諸事業に取り組んでおられる皆様の活動が不可欠であります。

今後とも調査研究や社会奉仕活動を通じて、地域の活性化の担い手として、大いに活躍されるよう期待しています。

創立40周年を契機として鳥取青年会議所のますますの御発展と会員皆様の御健勝をお祈りいたしましてお祝いの言葉といたします。



鳥取市長
西尾 迢富氏

鳥取青年会議所が創立40周年を迎えられたことを、心よりお慶び申し上げます。

貴青年会議所が創立された昭和34年は、岩戸景気の真っ只中にあり、3種の神器であるテレビ、冷蔵庫、洗濯機が家庭に普及し、高度経済成長期に突入する時代であったかと思います。

このような、希望に満ちた時代に始まって今日まで、青年の英和と勇気と情熱を結集し、明るい豊かな社会の実現に向かって、自己研鑽と社会奉仕の精神をもって、地域の経済・社会・文化等に対する提言や活動を展開してこられたことは、まことに喜ばしく、その取り組みに対し深く敬意を表する次第でございます。

貴青年会議所の活動内容で特記すべきことは、青島のこどもまつり、袋川の美化活動、砂丘一斉清掃からイベント展開、また、中国横断自動車道姫路・鳥取線早期完成への活動など枚挙にいとまがなく、その時機を捉えた機敏な活動は、広く市民の方々に支持されているところ です。

本市は、21世紀を目前に控え、「みんなでつくる明るくにぎわいのあるまち鳥取」を目標とする第6次総合計画を推進しているところですが、なかでも、中心市街地の活性化対策、鳥取環境大学の設立、市立博物館の建設など、大型プロジェクトを核とし効果的に推進していく必要があります。

今後とも、住みやすく、健康で文化的な市民生活ができる「まちづくり」に努めてまいりますので、貴青年会議所会員各位のより一層のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

創立40周年を契機として、貴青年会議所が英和と行動力をいかに発揮され、本市経済の活性化、鳥取文化の醸成など地域社会の発展に寄与されることを期待しております。

終わりに、鳥取青年会議所の今後ますますのご発展と会員各位のご健勝、ご活躍をお祈りし、お祝いの言葉といたします。

祝 辞



覬 日本青年会議所
会頭 **松山政司**君

社団法人鳥取青年会議所創立40周年を心よりお祝い申し上げますとともに、本日に至るまでの諸先輩の皆様、現役諸兄のご尽力に対しまして心より敬意を表させていただきます。

90年代最後となる本年、私は日本JC基本理念を「日本は動くその小さな勇気から」とし、教育・経済・地域主権NPOそれぞれについてJCメンバー一人ひとりが地域のリーダーとして自覚をもって行動、実践することを促しています。あなたの気づきが行動となって、明るい豊かな社会、しいては国境を越えた地球市民として「地球益」を育むことができると確信しています。その中で私は青年経済人として、小中高生を持つ親の年代として、「経済」と「心の教育」を特に重要な問題と考え、地域のため、家庭のため、子供のため、今何が必要とされているのかを真剣に考えていきたいと思えます。

いつの時代、どこの世界においても「青年の行動力」は時代を動かす機動力となってきたはずです。いかに既存の社会システムの前に個人の力が無力に見えようとも、一人ひとりの本気の行動が無ければ変革はありません。そして今、それらの問題に対する一人ひとりの回答を、自らの行動力をもって実践するときにやってきたと思えます。

今、一人ひとりが動けば、地域は日本は、かならず動く。私自信も自ら本気で実行し、そして全国のメンバーにもその勇気と希望、そして「かならずできる」という思いを伝えていきたいと思えます。私たちが動けば必ず日本は動きます。今こそ本気で動き始めましょう。

最後に、本年創立40周年を迎えられた山根敏樹理事長率いる社団法人鳥取青年会議所の皆様が、今までのJCでの経験を生かし、一人ひとりが変革の能動者として行動され、本年の各事業に更に飛躍されます事をご祈念申し上げますして、ご挨拶とさせていただきます。



覬 日本青年会議所中国地区
鳥取ブロック協議会 会長 **油井弘行**君

社団法人鳥取青年会議所が創立40周年を迎えられましたことを、社団法人日本青年会議所鳥取ブロック協議会を代表して心からお祝い申し上げます。

1959年創立以来社団法人鳥取青年会議所は、県庁所在地鳥取市を中心とした鳥取県東部の発展のため明るい豊かな社会を目指しJC運動を繰り広げられ、有意義な活動を展開されて来られました。その40年間に及ぶ先輩諸兄並びに現役会員の皆様方のご努力に対し、深く敬意を表します。

今日は、いや世界は、21世紀を目前にして時代の潮流は確実に大きく変わろうとしています。人間が本来持っていた心の優しさ、心の豊かさを求めていく時代へ。そして、地域主権への変換。行財政改革、規制緩和、環境問題、国際問題等の社会システムを見直さなければならない。まさに大きな問題に直面し、新しいシステムの転換が必要になってきました。

本年創立40周年を迎えるにあたり、山根敏樹理事長が掲げられた「夢計画'99 輝く新因幡へ」～因幡市民の未来へ向けて!～のスローガンのもと、今後より一層地域社会に目を向けて直面する多くの問題の重要性を予知しながら因幡市実現へ向けて、地域社会から期待される団体として、改めて力強く第一歩を踏み出して頂きたいと思えます。

最後に40周年の歴史を踏まえた上で、夢にあふれた地域のために未来への新たな道標を構築すべく力強い青年会議所運動を展開され新たな夢を持ち、21世紀へ向けて今出来ることから挑戦され続けることと、更なる飛躍を心よりお祈り申し上げお祝いの言葉とさせていただきます。



社団法人 米子青年会議所
理事長 細田耕治君

社団法人鳥取青年会議所の会員の皆様、そしてOB諸先輩並びに関係者の皆様、本日ここに創立40周年を迎えられましたことに、社団法人米子青年会議所を代表して心からお祝いを申し上げます。同時に今日の貴青年会議所のご隆盛をみるにつけ創立にあたりスポンサーJCとしてお手伝いをさせて頂いたという過去の事実を、今なお栄光に存ずる次第であります。

1959年創立以来、因幡の地のオピニオンリーダーとして青年らしい発想と行動力で成果を積み上げてこられた実績は、先輩諸兄、現役会員の皆様の英知と勇気と情熱の結晶であると思います。

貴青年会議所は、予ねてから様々な切り口を見出し、まちづくりに取り組んでこられました。すなわちそれは、因幡但馬の連携の必要性をいち早く訴えた「ペガサスの郷」構想の作成推進であり、地域の財産を活かした「麒麟獅子フェスタ」や「夢砂丘プロジェクト」等のイベントの企画実施であり、山陰東部高速交通都市圏（因但計画21）の作成や推進運動の展開でありました。また地域の環境問題や福祉問題、さらには青少年育成等々にいたるまで今のあらゆる課題を捉えつつ、しかも地域の将来をしっかりと見据えた事業を、議論だけではなく汗をかいて行動することにより展開してこられたことには、深く敬意を表すものであります。

地域主権が叫ばれる今、私達青年会議所が果たすべき役割は一層重くなりつつあります。貴青年会議所が、この40周年を新たなステップとして、地域とともに「新因幡市民シップを育む運動」を展開され、ますます発展されますことを祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



社団法人 釧路青年会議所
理事長 木元浩喜君

社団法人鳥取青年会議所が、全国で156番目の青年会議所として昭和34年に創立されて以来、本年度40周年を迎えられたことを（社）釧路青年会議所を代表いたしまして、心よりお慶びを申し上げます。

鳥取市と釧路市の交流は、明治17年18年の2回にわたって、105戸513人の鳥取県士族の釧路移住に始まると聞きます。両青年会議所においては、鳥取青年会議所の10周年事業に参加した時から相互の交流が始まり、本年度姉妹JCとし30周年の年になります。毎年、恒例の京都会議、全国大会での懇親を重ねてまいりましたが本年4月に初の試みとして電話テレビ会議システムを利用したの合同例会を開催し、それぞれの地域や青年会議所の現状、将来の構想を意見交換し更なる友好と友情を深めることのできた記念すべき年になりました。

今日、両青年会議所をとりまく環境は、厳しいものがあります。しかし多くの素晴らしい先輩達が、築き上げてきた私達の地域（まち）づくりの精神を受け継いでいかなければなりません。21世紀のグランドステージ「新因幡市民シップを育む運動」を展開されていく、鳥取青年会議所の郷土愛に満ちた積極的な活動に心よりのエールをおくります。

鳥取青年会議所が、この創立40周年をひとつの節目として今後益々ご発展をされますことをご祈念申し上げますとともに、鳥取青年会議所を支えてくださいました関係各位、先輩諸兄の皆様に心からの感謝と敬意を表し、お祝いの言葉とさせていただきます。



前鳥取県知事
西尾 邑次氏

祝 辞

鳥取青年会議所には創立40周年を迎えられ、心からお慶びを申し上げます。

貴青年会議所は、昭和34年に創立されて以来、次世代の担い手である若者らしい発想と行動力を基礎に自己修練を積み、責任感を持って、明るさ・豊かさを実感できるまちづくりを目指して、地域開発、環境問題や青少年の健全育成、社会福祉等に関するさまざまな活動を通じ、地域社会のために活発に行動されるなど、今日までの数々の御功績に対し、深く敬意を表し感謝申し上げます。私は昭和58年以来4期16年間にわたり、県民一人一人の幸せを願い公平で誠実、開かれた県政を基本理念として、県政を推進してまいりました。

真に幸せを実感できる住み良いふるさとの実現を目指した「ジゲおこし」、「健康づくり県民運動」、「全県公園化構想」などの取組みを皆様とともに進めて参りました。「自分達の地域は自分達で作るんだ」という考えを提唱してきました。

この考え方は、現在の公園都市構想に引継がれており、県民総参加で取り組んだ先の山陰・夢みなと博覧会の運営などを通じて、着実に浸透してきたと考えています。

また、県民一丸となって立派に成し遂げることができた「わかとり国体」、「山陰・夢みなと博覧会」など、その感動は今でも強く胸に焼きついています。

今後とも、柔軟な適応力、斬新な発想と行動力をもって、市民運動の先頭に立ち、経済・社会・文化等に関する調査研究や社会奉仕活動を推進され、地域の活性化の担い手として、大いに活躍していられることを期待しています。

終りに、創立40周年を契機として貴青年会議所のますますの御発展と会員皆様の御健勝をお祈りいたしましてお祝いの言葉いたします。

周年に寄せたメッセージ
創立40周年おめでとうございます。

「砂かけフォーラム」座長 吉田幹男氏

県主催の「砂丘デザインフォーラム」を契機として、「砂かけフォーラム」が平成2年に発足したわけですが、本年は設立10年目という一つの節目を迎えております。過去様々なイベントを通じ、砂丘と市民を繋ぐきっかけづくりを行ってきたわけですが、砂丘博物館の完成を2年後に控え、さらにその輪を広げる役割を果たしたいものです。

幸い、鳥取青年会議所の40周年記念事業の一つとして「砂かけフォーラム」が催されます。まさに砂丘のエポックメイキングになるでしょう。



周年に寄せたメッセージ
創立40周年おめでとうございます。

「因幡獅子の会」会長 青木 斉 氏

私と鳥取青年会議所との出会いは、5年前の県民文化会館での35周年の記念式典の際アトラクションで「麒麟獅子とさいとりさし」でお招きいただいた時から現在に至っております。その間、因幡獅子の会の会長への就任があり、また、平成8年11月には、鳥取青年会議所より褒賞と記念品をいただき大変感激いたしました。

麒麟獅子フェスタも鳥取青年会議所の方々のご理解とご協力により、今年で5年目を迎えることができる事に深く感謝いたしております。また、因幡獅子の会の組織・運営も少しずつながら「和」ができてきており、鳥取青年会議所のスローガンでもある「因幡はひとつ」に少しずつながら近づいて来ているのではないかと最近思っているところであります。

今後も、鳥取青年会議所の方々とのパートナーシップで、因幡獅子の会がますます繁栄して行くことを願っております。

鳥取青年会議所の皆様のご多幸と会のますますのご発展をご祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。



過去への敬意と感謝

因幡への熱い想いがカタチとなって展開され、スパイラルの道のりを通りながら次第に夢が膨らみ、明るい豊かな因幡を創造する共創の心が大きく実っていきます。

まちづくり

座談会を中心とした「まちづくりへの取り組み策定期」を経て、久松山・袋川に関わった「身近なまちづくり志向期」に至り、「まちづくり運動の具体的な実践期」により点から面への展開がなされ、まちづくりへの新たな方向性が胎動する時期(30周年)を迎えた。その後は、大いなる活動方針「因幡の国づくり」を展開している。

福祉

「施設合同運動会」からスタートし、「福祉における他団体との連帯性ネットワークづくり」「障害者とのコミュニケーションづくり」などノーマライゼーションの心が基軸になっている。献血運動の意識の高揚と共に因幡高齢化社会への取り組みをも事業展開し、「因幡たすけあいのあるまちづくり推進活動」へと実践している。

青少年

「少年野球大会」「鳥取こどもまつり」「いなばっ子スクール」を展開する中で、青少年育成事業に対する目的・方向性を見直しも行ってきた。「まちづくりは人づくり」から因幡の国づくりの担い手を目指す地域の青少年健全育成に関わり、次世代を担う青少年に対し「因幡市民意識を育む運動」を展開している。

1959

1999

政策提言

社会開発に関わる運動を政策として地域に問いかけを行ってきた。「ひらけゆく鳥取」に始まりそのPARTⅡの刊行を経て、「再編と転換」を発刊し「夢現展」「CIフォーラム」を行なった後、創立30周年に「マルチスライド」が完成した。その後「因幡市構想」「因幡田園都市構想」を提唱し、「因幡はひとつ」を合い言葉にまちづくり活動を展開している。

自己開発

「経営者能力開発」「ロバート議事法」「3分間スピーチ」の3本柱を中心に、会員の資質向上を自己修練により行ってきた。つまるところ自己修練の場は、JC運動それ自体である。

近年の鳥取JC

検証Everything old is new again (温故知新)

鳥取大砂丘を心のふるさととして、中国山地・日本海・そして名水千代川に自然の恵みを限りなく施されてきた、ここ因幡。

(社)鳥取青年会議所のなりわいをつぶさに見つめてきた歴史の街「因幡」で、私たちはどんな活動を展開してきたのでしょうか。創立40周年にあたり、過去10年間の事業をあらためて振り返ってみたいと思います。

まちづくり

1990年、因幡エリアを一つのまちとして見ようという「因幡市構想」のもと、世代を超え、街に住む私たちが主役となるまちづくりをうたった「パークシティ構想」を打ち出しました。また、既に中国横断自動車道姫路鳥取線の早期実現に向けての行動が様々な模索されている中、1991年「まちづくり・みちづくりシンポジウム」では、当時の建設省藤井道路局長をお迎えし、「道路の拡充とまちづくりは同時進行でなくてはならない。すなわち、高速交通網の整備は目的ではなく手段である」と訴え、更に1992年に東部高速交通都市図「因幡計画21」を作成し、鳥取からみた南北軸のみならず但馬エリアとの広域連携も提言し、高速道路がまちづくりを加速化すると訴えました。また同年、細川護熙氏をお招きして「因幡の郷づくりフォーラム」を開催し、将来の因幡の豊かさを改めて見直そうという認識が十分になされました。

さて、1993年には環日本海経済圏の創生が叫ばれる中、敦賀から下関までの日本海沿線30青年会議所の理事長が鳥取の地に結集して、広域連携・国土軸のあり方を問う「日本海ラインシンポジウム(30JC理事長サミット)」を実施しました。また、地方拠点都市の指定を受けた県東部15市町村=因幡において、この因幡地域の特性は何かを明らかにすべく、各行政単位にて調査した福祉・文化・交通等、様々な要素を一枚の地図にそれぞれ分類して見やすくまとめた「因幡デザインマップ」を作成。更に、隣接する鳥取空港と鳥取港をよりリンクし活用化させていくべきと提唱した「因幡ツインポートストーリー」も発行し、行政に投げかけました。まさにこの年は、因幡のもつ無限の可能性を対内に対外に見つけようとしたスローガン、「因幡の国づくり」構想にふさわしいエネルギッシュな一年でした。

1994年、創立35周年において、因幡の持つ都市機能と豊かな田園地帯の相互関係、つまり古き良き「まちとむら」の関係をますます一体化して発展させる「因幡田園都市構想」を提唱し

ました。そして、同年開催した「フォーラム因幡94(煮えたら食わ〜はもうふるい)」は、この構想について各15市町村でまちづくり熱心に取り組んでいる様々な団体の方々やザックバランに議論を交そうという意図で行いました。また、「因幡計画21」にうたわれた広域連携を実現すべく、但馬4JCの賛同を得て「因幡但馬連絡協議会」を発足させ、1995年には観光を切り口とした「ベガサスの郷構想」(そのシンボルは鳥取の「鳥」と但馬の「馬」をモチーフにしたベガサス)を提唱しました。その後、具体的なカタチで圏域都市に問いかけをする「ベガサスの祭典96」として実現し、他JCとの密接な展開を地域軸として求めていく「HOTネットワーク98」につながって来ています。

一方、「因幡」を語るにふさわしい宝物(誇り)探しは、過去からも様々な取り組みを行って来ました。国内でも因幡地域だけでなく、かつて若き池田藩主が統治するにあたりシンボルとして崇めたという文化財産「麒麟獅子」に着目。1995年、各地で精力的に演じられている獅子保存団体の皆様の絶大なるご協力を得て、「麒麟獅子フェスタin因幡95」を因幡万葉歴史館で盛大に開催しました。因幡市民としての誇りを高らかに感じると共に、心を連帯し分かち合えば本当に素晴らしいものが創造できることを確信しました。その後、1996年には因幡の大いなる財産「砂丘」にその舞台を求めた「麒麟獅子フェスタin鳥取砂丘96」。そして、1997年の鳥取砂丘こどもの国での「麒麟獅子フェスタ97」。豊かな田園地域で開催した「麒麟獅子フェスタ98inこうげ」。開催毎に参加団体の帰属意識を高め、外部に因幡獅子の会・フェスタ実行委員会も組織されるなどめざましい発展を見るに至っております。

「因幡はひとつ」この想いを具現化する一つの方策は、私たちがエリアとしている因幡=東部15市町村が既存の行政枠を見直して縦横に連携を実現し、合併も視野に入れながら地域ビジョンを語っていくことです。私たちは1995年、その想いを漫画によるわかりやすい解説を加えて「因幡市誕生物語」として世に問いかけました。その翌年、対内学習会「合併問題を考える集い」として先進事例である淡路・徳山JCと意見交換をすることで、広域連携に対しメンバーの意識を高め、因幡の今後のあり方について深く考えるチャンスを得ることができました。その後、1997年には新田八朗日本JC会頭と阿部寿一氏(現酒田市長)をお招きし、「マルチフォーラム」の中でまちづくり運動を検証し



て参りました。

「青少年育成と福祉」

(社)鳥取青年会議所の事業の中で、40年間を共にあゆんで来たものに「青少年育成」と「社会福祉活動」があります。1976年に誕生した「鳥取こどもまつり」は、20年を経て実行委員会組織の更なる拡充が行われ、次世代の因幡の担い手を育む地域のまつりとして大きく育ってきております。この他に1993年の「いなばこまちづくりフォーラム93」、1994年の「Sim City 因幡」、1995年の「因幡ハートランド21」など、因幡市民を育む青少年健全育成事業として行って参りました。

また、1996年度の(社)日本青年会議所は、新社会システムにおいて「身近なコミュニティからたすけあいの心を持ち、まちづくりを進めて行こう。」とする運動指針を提唱しました。これと同じく、永年続いている積善・若草学園の訪問と献血活動がベースになり、高齢化が急速に進む因幡地域で施設福祉にボランティア精神で取り組み、一緒に楽しみながら学ぼうとする新たな試みが、「因幡たすけあいのあるまちづくり推進活動」としてなされて参りました。1996年の「たすけあいのあるまちづくりセミナー」から、1997年の「ふれあい列車遠足」、そして1998年の「行き生き!ふれあいタウン」へと活動を続けて来ています。

「砂丘と環境問題」

冒頭に取り上げました因幡の財産「砂丘」には、様々な想いと大きな誇りを抱いてきました。そして近年では、この砂丘との関わりから環境問題を真剣にわかりやすく考え事業に集約して取り組んできました。

まず、1990年に砂丘をランドデザインし活性化させようという目的で、産官学の有識者に集まっていたき足した「砂かけフォーラム」は、当時叫ばれていた「砂丘の草原化」問題に先ず取り組むこととなり、法的規制を受けながらも周囲の人々の熱意と賛同を得て、1991年に「草抜きの集い」を実施しました。また同年、実際に砂丘を歩き回って環境の実態を知ろうとする試みから「砂丘横断クイズ」や、筑紫哲也氏と共に砂丘の大切さを語り合った「砂丘シンポジウム」も繰り広げられ、広く深く砂丘と因幡市民とが関わることの重大さをアピールできたものと思われれます。砂丘和紙をも生み出したこの流れは、砂丘を多面的にデザイン化し守っていかうとする運動体のシンボル「砂丘博物館構想」へと結実し、1997年の「ときめき夢砂丘」、1998年の「き

らめき夢砂丘98」と展開され、今日に至っています。

こうした砂丘に代表される山陰の自然の豊かさ、恵みも今日の地球的規模の環境問題からみても、まさに貴重な財産として守っていかなければならないものであります。1993年には砂丘への取り組みで知り得た経験則、すなわち「机上の理論より一歩の行動が先決である。」との確信から、因幡全域にわたり担当委員会メンバーが足で廻り収集した「因幡地区環境問題調査」の結果が発表され、大きな反響を呼び起こしました。1994年には、この貴重なデータを活かしつつ、千代川水系に接する15市町村の環境行政担当者が一堂に会して環境問題について忌憚なく語り合う「因幡環境連絡会議」を開催しました。

そして更にステップアップした1995年には、因幡の水資源を見直し守っていかうと、親子を対象として屋外スクーリング形式で行われた「因幡環境スクール」が、マスコミの注目のもと真夏に実施されました。これを受けて1997年には「いなば水と緑の体験塾」を実施し、因幡市民と共に環境問題への意識の大きさを再確認し、強い関心を持って活動して参りました。

この様に、絶えず「JCらしさ」を見失うことなく事業を展開し活動を行って参りました。この10年間に亘りJCとしてのスタンスを対外的にしっかりと示して行ってきた活動があります。それは創立30周年に行われた「交通シンポジウム」に端を発した、中央省庁とりわけ建設省への高速交通網の陳情活動でした。「中国横断自動車道姫路鳥取線」「地域高規格幹線道路鳥取豊岡線」「山陰自動車道」の早期実現へ向けた陳情を、まちづくりのための手段として捉え鳥取JCらしい陳情活動を展開してきました。この間、藤井治芳氏(現日本道路公団副総裁)から毎年のように叱咤激励を受け、「宿題」と称して活動に落とし込んでくれたことにも大きな意味があったと思います。とりわけ「姫鳥線の施工命令」というカタチが実った事で、いわゆる青年会議所運動はこれだと実感することができました。

私たち社団法人鳥取青年会議所の活動の源には、「変革の能動者たらんとする青年としての英和と勇気と情熱」が、絶えずカタチとなって脈々と流れ続けているのだと思います。



創立40周年に描く運動ビジョン

「輝く因幡の未来のために」

はじめに

私たち(社)鳥取青年会議所は創立40周年を迎えるにあたり、21世紀に元気な青年会議所運動をメンバーはもとより多くの因幡市民と共に協働しボトムアップによる活動を行なえる組織を責任もって構築するために、1997年度から今日まで運動ビジョンの策定に取り組んで参りました。

さて、夢に日付を付け責任持ってわかりやすく表現し実現(実行)していく事がビジョンと言われています。そこで、共通の夢を描くために「私たちの因幡の21世紀=未来はどうなっているのだろうか。」ということが、最初に当たった課題でした。「我々は後ろ向きに未来へ入ってゆく。」と言う、P・ヴァレリーの言葉がありました。私たちの眼界を占めているのは過去と現在の光景のみです。全く見えていない未来を心に思い描くのは冒険でしかないと思います。しかしながら、私たちには多くの判断材料が至る所から与えられているのです。

この判断材料をもとに未来を考える。はたしてこれで良いのか…。と悩みつつも、自分が卒業したあとのこの鳥取JCの活動にお幸せあれ輝きあれと念じる明朗な心躍りを楽しむがごとく、「これから自分ももっと豊かに行動できるために、自分はどうありたいのか。」ということをメインテーマに掲げることで、運動ビジョンの策定が自分たちのものとなってきたように感じられます。

JC(青年会議所)と因幡

(社)鳥取青年会議所は、創立30周年を契機として、まちづくり運動を通して意識改革を行ない因幡に「気づき」、因幡市構想を提唱し、自立した因幡市民としての意識付けと新たな行動として因幡田園都市構想を「広げる運動」を行なってきました。

そして、本年度創立40周年21世紀を迎えるにあたり、その「しくみ」づくりに向かおうとしています。私たちは過去の鳥取JC活動の流れを一つひとつも解きながら検証を行って参りました。まさに麒麟獅子フェスタ・ときめき夢砂丘・いなば水と緑の体験塾は「広げる運動」であり、鳥取こどもまつり・行き生き!ふれあいタウンは、「しくみ」づくりに一歩踏み出した事業でありました。

21世紀に豊かな因幡田園都市を共創し、魅力あふれる鳥取JCであり続けるためにも、私たちは今まで以上に因幡地域を認識し、因幡市民と理解を深め、因幡を拓く責任世代のコアとしての活動を持続していかなければならないと考えます。

そのためにも、これからはビジョン(運動)とアクション(行動)を一致させる活動を行なっていく努力と同時に、メンバーの自己改革を通じた「個人における意識づくり」と、「あたりまえ」のことが「あたりまえ」にできる青年会議所の組織運営を、創り上げて行くことが必要になって参ります。

さて、世紀の変わり目を目前にして、私たちは今、時代の大きな転換期の中でいまだかつてない閉塞感漂う時代を迎えています。特にこの10年の変化は大変大きな10年でした。90年代に入ってからバブルの崩壊にともない、それまで順調な成長を続けてきた日本経済も、今や好況感はずっとありません。

また、行先の見えない不安感に加え、少子高齢化社会の到来、財政赤字問題、犯罪の低年齢化、酸性雨やオゾン層の破壊、ダイオキシンなどの環境問題等、様々な問題が山積みしています。その上、あれほど望まれていた規制緩和が進につれ、自由を目の前にして戸惑う人々の姿が目につくようになりました。「何かなくては。でも、いったい何をすればいいのか…」与えられた役割を無難にこなすように考えてきた人々にとって、自由を与えられても何も出来ないのかも知れません。

今までの規制も多いが保護されている、そんな体制が音を立てて崩れはじめています。しかし、これらのことは、社会の成熟化に向けてのステップであり、明るい因幡の未来に向けた試練であり、通過点なのです。そして重要なことは、この通過点を経て、自分の意識も行動も、社会システムも変えていかなくてはならないという事だと思えます。言い換えれば私たち一人ひとりの意識と行動を変えることによって初めて明るい未来を見出すことが出来るのではないのでしょうか。

これから、21世紀を迎えた私たちの因幡地域でも、一層インフラの整備が進み数値(指数)的には今よりも住みやすいまちになっていくものと考えられます。

その反面、私たちの運動も中から興る、心のスタンダードを持った地球市民意識・小さなデモクラシーの新人間社会の姿は、

新因幡市民シ

地域主権型社会に向う状況にも関わらず、その全体像を見失いがちになりはしないかと懸念されます。

さらに、これからの青年会議所活動の中でまた地域でも、ダイバーシティ(多様性)という言葉が一つのキーワードになってくのではないかと思います。多様性をお互いに尊重しながらも、共に協力していく共通の手段(ルール)をどうやって創っていくかということです。

そのためにもフレンドシップ=コミュニケーションをもって、青年会議所メンバー一人ひとりが「どうなる」ではなく、「どうする」という姿勢で青年会議所運動に取り組んでいくことが重要になってくると考えます。

新因幡市民シップを育む

これまでの20世紀社会がそうだったように、21世紀には想像しがたい速いテンポで「夢が夢でなくなる日」が現実のものとなっていきます。この新世紀に向けグローバル化する因幡地域の中で、私たちは青年経済人としての「個人のとJC」の果たすべき役割を青年会議所運動の中から気づき、活動し、認識を深めて参りました。

ここに創立40周年・21世紀を迎えるということは、10年後に(社)鳥取青年会議所が半世紀を迎えた時、私たちがオピニオンリーダーとして因幡地域で認められるための重要な10年間であり、またこの因幡が明るい豊かな21世紀社会を構築するために必要なファーストランディング(助走期間)でもあります。

つまり、今こそ私たち一人ひとりが未来への責任を自覚し、自らが自立し、意識を持ってパートナーシップ(=共創の心)を育んで行かなければならないと思います。そして、地域のこと、生活の問題などは、市民自らが責任を持って決める地域主権型社会の確立を、因幡市民と共に行動し、輝く因幡の未来を共創する心「新因幡市民シップ」を育むことを運動ビジョンとして展開して参ります。それと同時に、魅力あふれる鳥取JCであり続けるために「新因幡市民」と共有できる組織づくりを目指し、英知と勇気と情熱をもって「因幡市民創世のしくみ」づくりに向けた理念・政策を掲げ活動展開して参ります。

すなわち、世界に誇れる地域主権型社会～因幡田園都市

～の構築に向け、因幡市民としての意識を持った共創の心=パートナーシップを確立する事が、私たちの子ども達の世代に因幡市民・因幡地域が大きく輝くための礎となる事と思います。

そのために、(社)鳥取青年会議所は、自己改革に努め、JCメンバーそれぞれがパートナーシップの核となり「新因幡市民シップ」の確立に向け運動展開して参ります。

おわりに

江戸時代から?自治組織は成り立ってきました。普段は見えない「コミュニティ」という中くらいのサイズの地域関係です。今後は国家機能が縮小していだろうから、自分たちで地域の問題を解決する流動的な共生関係(組織)が重要になってくると考えられます。

新興住宅地等ではかつての町内会が自治会と名前を変えてはいますが、逆に自警的な組織機能を失って、行政の下請け組織になってしまっています。

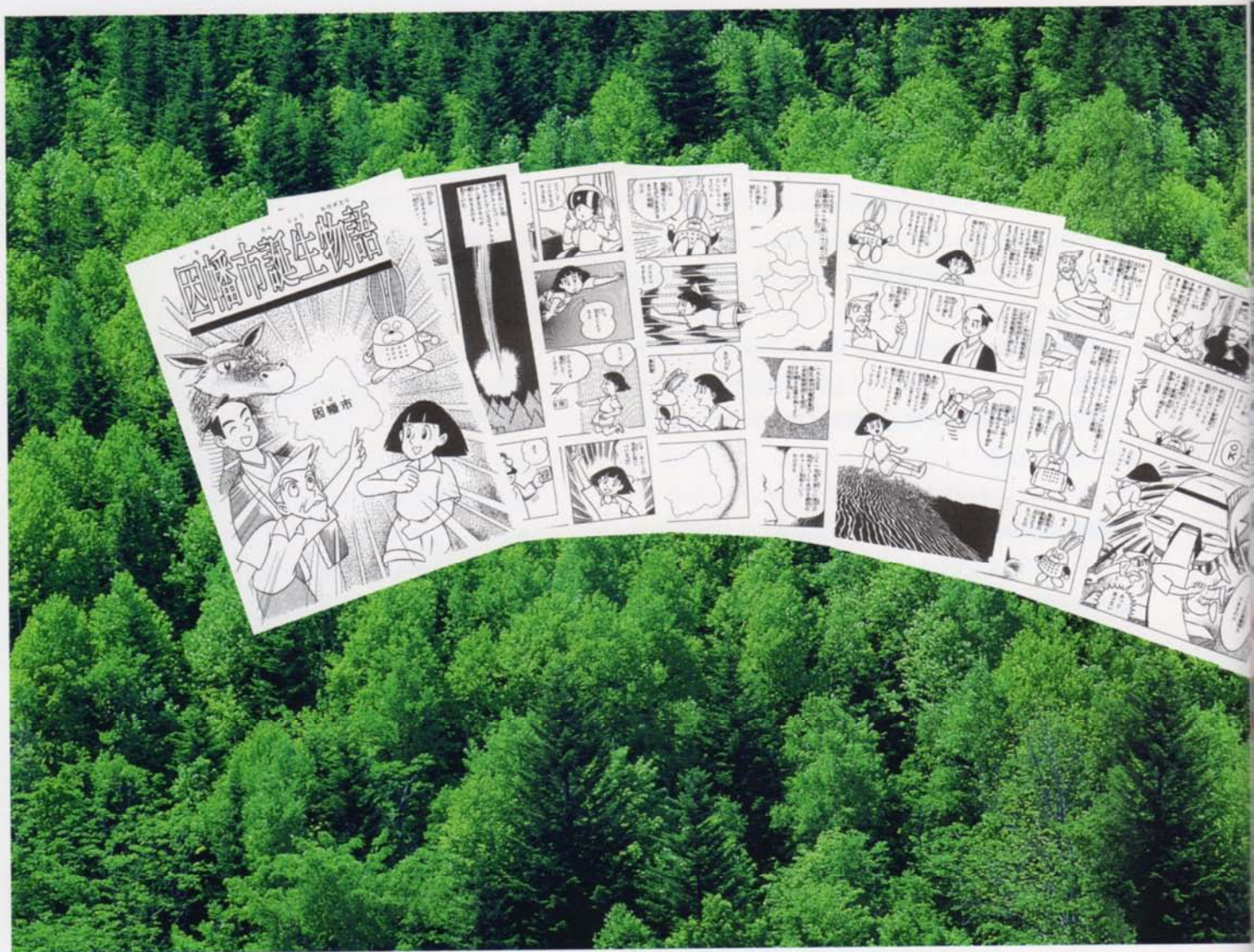
市民というのは、地域に限らず、基本的に自分たちを育て、守るための自治的関係(組織)が必要です。(……地域だという誇りと自信を持って……)

私たち(社)鳥取青年会議所が掲げるところの「因幡市民」も、そのまちを愛し、責任感を持って行動する人々であり、私たち自身もその一人なのです。

まさに、全然違うテイストをもった個人がお互いを尊重し合い、自立と責任を持って共生しこの地域を創造していく「因幡市民」が、21世紀では本当に大切な財産となって行くことでしょう。

シップを育む…

使命のゆくえ《因幡市民として》



まちづくりはひとづくり そして ひとづくりは「市民づくり」

美しいまち

美しいまちというものははじめからあるはずがない。

そこに住む私たち一人一人が「美しく住もう」

そう心がけ、目指していくことから

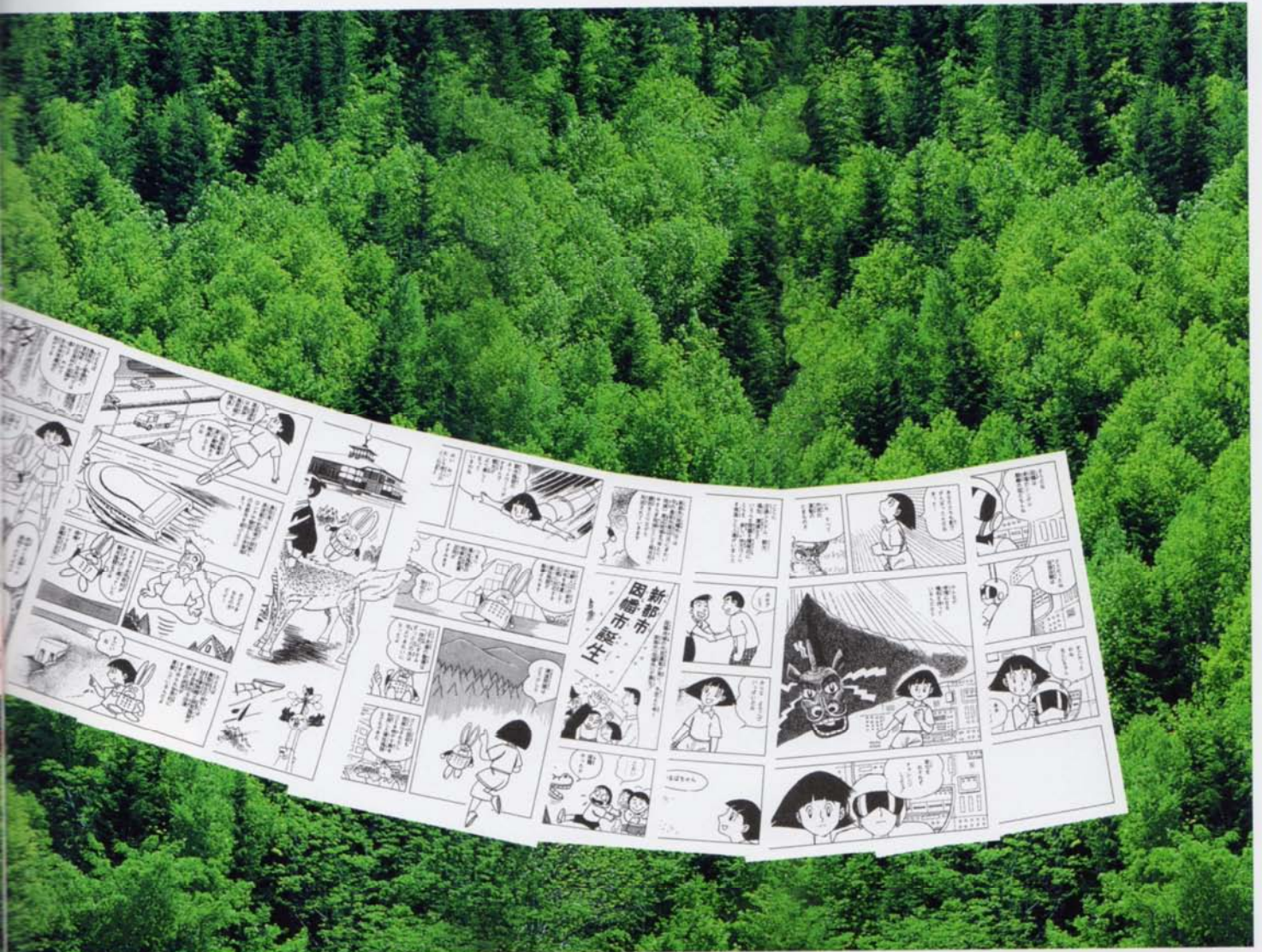
美しいまちとなるのである。

美しい、すばらしいまちは、決して与えられるものではなく、そこに住む市民が思い描き、そして行動していくことによってつくられるものです。

私たちのまち「因幡」がよりすみやすい豊かなまちとなり、私たち一人一人が誇りをもって幸福に暮らしていくために…。単なる住民ではなくそのまちを愛し、責任感をもって行動していく人(=市民)を1人でも多く増やしていくこと。

まさしくこの「市民づくり」こそが私たちのまち「因幡」の未来のために何よりも必要なことではないでしょうか。

私たち(社)鳥取青年会議所は今日までの40年間の歴史を礎とし、その使命ゆくえを見据えながら、因幡市民として「明るい豊かなまちづくり」をより具体的な形で推進していかなければならないと考えます。



●地域主権を目指して

我が国日本は、先行きの見えない不況、少子・高齢化社会に対する将来への不安等数々の難問を抱えています。こんな逆境の時代だからこそ、私たち市民が立ち上がらなければなりません。国の行財政システム、国と地方との関係の見直し、そして自らの当事者意識を再構築できる今はチャンスの時ではないでしょうか。

地方分権という言葉が叫ばれて、すでに随分の時が経過しました。現在の国内情勢をみても、国家をあげての大改革が必要であろうことは市民の私たちは痛いほど感じていることなのに、なぜ思うように進まないのでしょうか。

私たち市民が、地方自治を阻む国と地方との関係に目をむける必要があるのではないのでしょうか。「国と地方との財源の配分」及び「財政資金の流れ」に関して私たち

市民は、大いに疑問の声を上げるべきなのではないでしょうか。地域間格差を是正する目的で施行されている地方交付税制度を、根本から見直すことも必要であると思います。国に依存したままの地方では、政策形成能力は身につきません。私たちの住む因幡が理想的に、そして个性的に発展を遂げ、地方分権、いいえ地域主権をかなえていくために、私たちは自主財源確保の在り方をも徹底的に論じていく必要があります。

使命のゆくえ《因幡市民として》

●市民意識を広げ、そして高めていくために

私たち(社)鳥取青年会議所は40年の歩みの中で、因幡[鳥取県東部15市町村]を活動エリアとして位置付け、因幡を深く愛し、さまざまな観点から課題を探求し、理想のまち「因幡田園都市」を描きながら議論し汗を流してまいりました。麒麟獅子を媒体として、広域連携を模索し、国際的な視野に立ちながら、鳥取砂丘の大いなる可能性にチャレンジし、そして高速道路等の早期実現を目指しながら他地域との交流も深めてまいりました。地球環境を意識し、因幡市民ジュニアの育成を念頭に置きながら、青少年達とも大いに関わってまいりました。福祉の分野では「たすけあいのあるまち」を目指して活動を続けています。多年にわたる活動が実り、多くの素晴らしい方々との出会いがありました。私たちは今後も、同志ともいえるこの市民ネットワークを深め、さらにその輪を広げて行きたいと考えています。

そしてそれに加えて、因幡を自立した活力あふれる地域としていくために、さらに強く市民意識を持ち行動していきます。

《さらに強く市民意識を持つ》私たちは市民として「納税者意識」「有権者意識」を高めていかなければなりません。

「選挙に行ってもなにも変わらない。」「なぜこんな無駄な事にお金を使うのだろう。」「こんな不平や不満をこぼしているだけでは何事も変わりません。私たち市民は主権者であり、責任者です。私たちの税金がどのように使われているのか。決して個人的な利害に視点を置くのではなく、まちの大きな利益のために正しく使われているのかをもっと深く知らなければならないでしょう。また縁故、情実ではなく、しっかりと政策を聞き、吟味し、そして責任をもって選んだ私たちの代表者たちが、まちをより良くして行くための行動をしてくれているのかどうか確かめなければなりません。

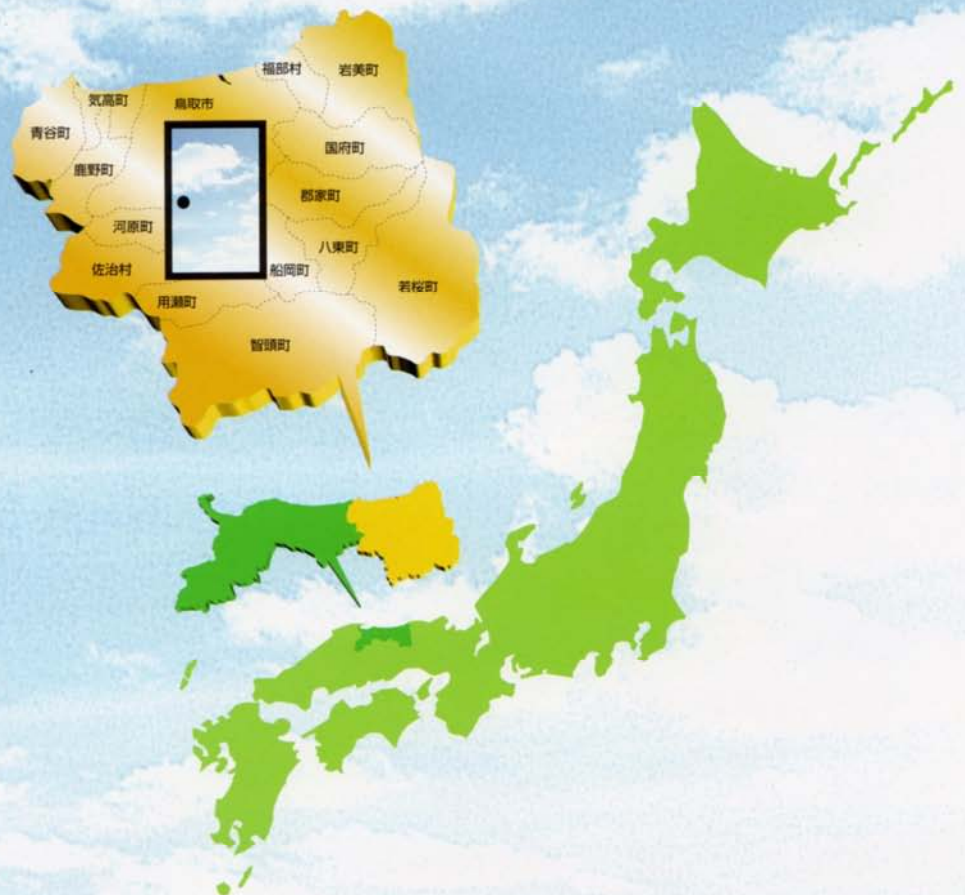
国におまかせの地方。あるいは行政におまかせの市民。この依存体質からの脱却を早急に図る具体的な行動を私たち市民が起こす必要があります。今後私たち市民は行政とさらにステップアップしたパートナーの関係を築

いていかなければなりません。つまり市民参加型ではなく、「市民主導のまちづくりに行政を巻き込んでいく、行政参加型のまちづくり」を推進しなければならないと考えます。

私たちの行動は、因幡を自立したまちへと変えることができるはずで、そして国と地方との関係の改善を促すことになるはずで、更には私たちの愛する日本が、国際的にも、地球の中で重要な役割を果たせる輝きを持った、誇りある国となることに繋がると信じます。



共創の心で、輝く因幡の扉を開く。
私たちは、愛・夢・絆
そして、やさしさと勇気を育む
因幡市民です。
さあ、一緒にあゆみはじめましょう。



因幡市民憲章 起草にあたって

かけがえのない「ふるさと」だから
無限の愛をそそいでいこう

かけがえのない「ふるさと」だから
みんなの夢を築いていこう

かけがえのない「ふるさと」だから
誇りをもって動いていこう

この「因幡」の未来の子どもたちのために
かけがえのない「ふるさと」だから

因幡市という行政枠が存在するわけではありません。しかし現在をみつめ、そして未来を見据えたとき、個々別々のみの想いをめぐらすのではなく、みんなの想いを集め、力を合わせた方がよりすばらしいまちになるのではないのでしょうか。麒麟舞うまちに住み、共に歴

史を育んできた因幡市民として、今後さらに幸福に発展を遂げていくために……。私たちの行動原理として愛着をもち、みんなで心を合わせ唱和出来るものに育てていきたいという想いを込めて因幡市民憲章を起草いたしました。

因幡市民憲章

大いなる山々よ 流れ続ける千代川よ
きらめく鳥取砂丘よ 大陸へと続く日本海よ
悠々と麒麟舞うまち 私たちは因幡市民です
夢と 勇気と 誇りを持って
明るい豊かなまちをつくるため
ここに因幡市民憲章を定めます

1. いきいきと明るい笑顔を育める、
すこやかなまちをつくります。
1. 梨の花咲きほこる豊かさ、
文化と潤いのあるまちをつくります。
1. 万人の希望の声が響き合う、
元気なまちをつくります。
1. しっかりと小さな一歩を積み重ね、
地球を愛するまちをつくります。
1. みんなの心をひとつにし、たすけあい、
活かしあうまちをつくります。

5.16 創立40周年記念事業

●とき／1999.5.16 AM9:00～PM12:00 ●ところ／鳥取県立県民文化会館(各会議室)

第一分科会

《地方分権》グループディスカッション「わくわくDISCOVER因幡」

～15市町村の未来のために～

第7・8会議室

第1政策委員会

ワークショップの手法も取り入れながら、今の因幡を認識するとともに因幡のこれからのまちづくりを考えるグループディスカッションを行いたいと思います。

そして、参加していただいた方々が共創の心を育み、この出会いからつながる因幡の人の輪が広がり、今後のまちづくりの一助になれば幸いです。

第二分科会

《砂丘》砂かけフォーラム「発掘砂丘大辞典」

第1会議室

第2政策委員会

因幡市民の心に残った砂丘の思い出を、思い出の品とともに、年代を通じて紹介していただき、その情報を元に「わたしの砂丘年表」を作ろうと考えました。これにより今まで気づくことのなかった私たちと砂丘との関わりを意識し、砂丘への愛着心が一層芽生え、未来に向かって、砂丘を舞台とした夢のあるまちづくりに活かして行けるようになればと考えています。

第三分科会

《青少年育成と環境》因幡市民ジュニアワールドゲーム

第2会議室

第1・2事業委員会

次世代の因幡を担う子どもたちに、ジュニアワールドゲームを体験してもらうことで責任ある変革を生み出す能力を育み、自らも地球市民の一員だということを強く自覚して頂くことができればと考えます。

第四分科会

《福祉》パートナーシップネットワーク(PSネットワーク)

第4会議室

～わくわく因幡未来をともに考える集い～

第3事業委員会

「たすけあいのあるまちづくり」を推進し、21世紀の明るい豊かな因幡を目指すため、次世代を担う高校生とともに新たなパートナーシップの形成によるボランティア活動の活性化について共に考えていきます。

展示コーナー(フリースペース):各高校のボランティアの活動状況や、盲学校聾学校の生徒の創作活動(写真・作品)を展示紹介します。

因幡市民フォーラム

●鳥取県立県民文化会館《梨花ホール》●開場PM12:30／開演PM1:00

愛

私たちの愛する、ふるさと因幡

■因幡の風景／映像と音楽

民話で育む因幡のやさしさ

■因幡の民話語り

鳥取民話研究会

鷲見貞雄さん、中島須美子さん、谷口雅江さん

やさしさ

絆

子供たちの合唱がつむぐ絆

■童謡唱歌のふるさと因幡

(鳥取市少年少女合唱団)

すばらしい因幡の未来のために

■記念講演「勇気ある生き方」

講師／船井幸雄氏

(船井総合研究所会長)

勇気

夢

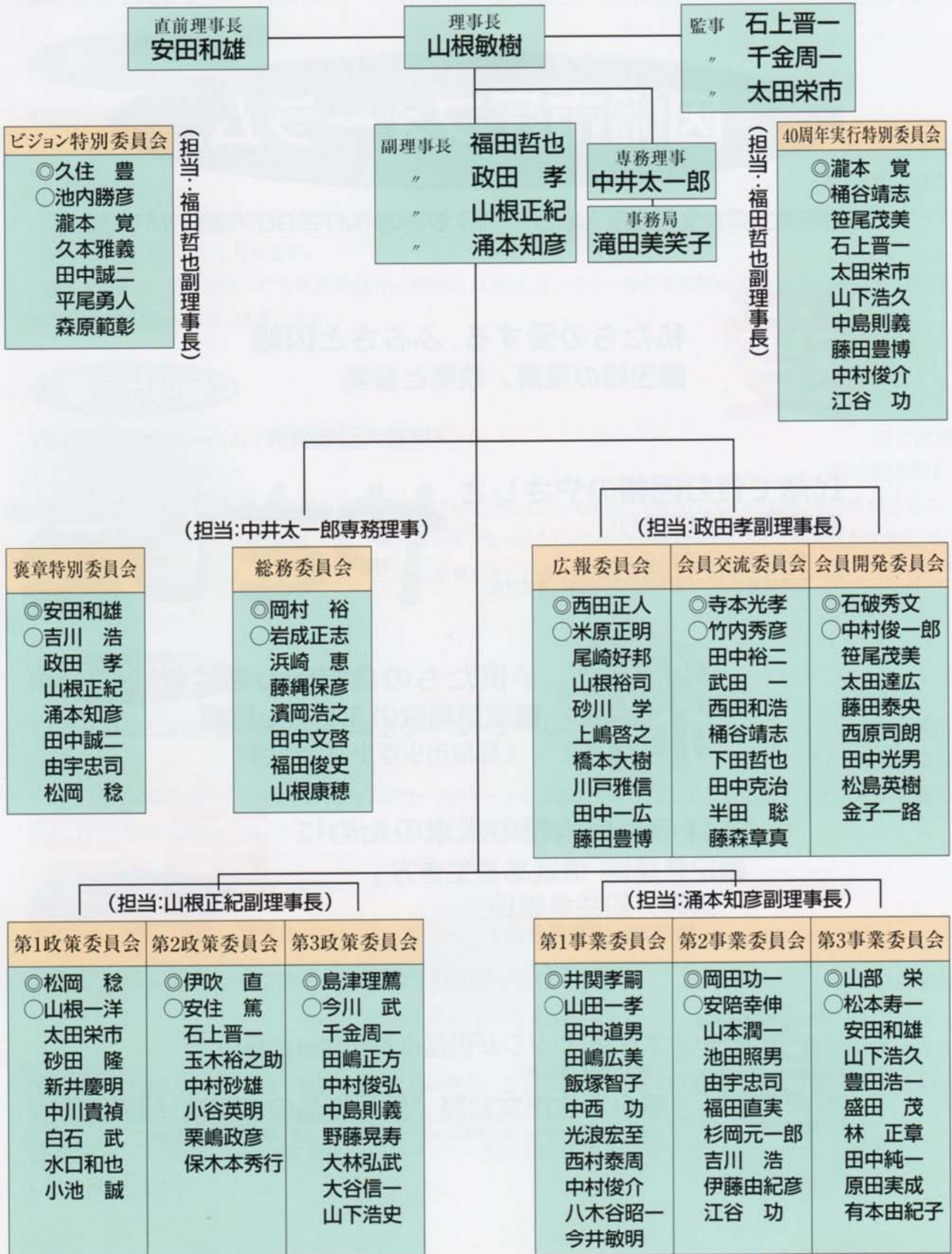
ボクが、ワタシが因幡市長になったら…

子供達が因幡に描く夢。

■小学生作文公募／優秀作品の表彰式・朗読

後援／鳥取県教育委員会・鳥取県東部15市町村教育委員会 協賛／鳥取三洋電機株式会社

1999年度 社団法人鳥取青年会議所組織表



備考 ○…委員長 ○…副委員長

The Creed of Junior Chamber International

We Believe:

That faith in God gives meaning
and purpose to human life ;
That the brotherhood of man
transcends the sovereignty of nations;
That economic justice can best be won
by free men through free enterprise;
That government should be of laws
rather than of men;
That earth's great treasure lies in
human personality ; and
That service to humanity is the best
work of life.

『JC宣言』

変革の能動者たらんとする青年として
個人の真に豊かな生活の実現を通して
自立した快適で活力ある地域を創造し
自由と公正を保障する国家を基盤として
世界の平和と繁栄に貢献し
地球上のすべての人と
共に生きることを誓う

綱 領

われわれJAYCEEは
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者 相集い 力を合わせ
青年としての
英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう

創 立 昭和34年1月25日
認 証 昭和34年3月7日(第156号)
認証式 昭和34年9月19日
法人化 昭和49年12月9日
例会日 原則として毎月第3水曜日PM6:30~9:00



法人 鳥取青年会議所

40周年実行特別委員会

委員長 **瀧本 寛**

あ と が き

今日ここに私たち(社)鳥取青年会議所は、創立40周年を迎えることが出来ました。これはひとえに、数多くの方々から青年会議所活動に対して、ご理解とそしてご指導ご鞭撻を賜ってまいりましたおかげと、心より深く感謝申し上げます。

昭和34年の創立以来、当青年会議所の多くの先輩方が、鳥取県東部地域「因幡」をより明るく豊かなまちにしようと、その年々の時代背景を的確に捉え、様々な取り組み方で「まちづくり」=青年会議所活動に励んでこられました。この40年の歴史は先輩の皆様、そして私たち現役メンバーの「まちづくり」の歴史です。

また、このまちづくりに対する理念と情熱を、後輩へ継承するために先輩方は身をもって指導され、私たちは先輩の後姿を仰ぎ見て、「まちづくり」を学んできました。「想い」を継承していくための、40年にわたる努力と功績により築かれたこの歴史、ここにあらためて先輩の皆様への感謝にたえません。

この度、先輩の皆様のご足跡を敬意を持って振り返ると共に、今まさに迎えようとしている21世紀の因幡において、私たちの活動の方向性・ビジョンを問いかけてみたい。そんな万感の想いを胸に創立40周年にあたり、本記念誌を発行する運びとなりました。

つまり、この記念誌は(社)鳥取青年会議所の新たな決意・スタートラインです。私たちは、こんな時代環境にあって、こんな時代だからこそ、これらの因幡のまちづくりのために新たなスタート地点に立ち、新たな行動を起こしていく年として捉え、本年度創立40周年を位置づけております。本記念誌の発行にあたりましては、大変ご無理を申し上げて多くの方々からご寄稿、メッセージを頂戴いたしました。私たちはいただいたご寄稿、メッセージを通じて皆様から寄せられる期待と責任をひしひしと痛感しております。そして何にもまして感謝に絶えないのは、皆様より与えていただいた「勇気」です。紙面を借りまして、ここにお礼申し上げます。

私たちは、より多くの「因幡市民」の方々とのパートナーシップを育みながら、まちづくりを共に考え一緒に行動を起こしてまいります。私たちは「因幡田園都市構想」を着実に前進させて行きます。皆様から頂戴いたしましたメッセージを、40周年以降、そして21世紀での運動展開において、必ず活かしていくことをお誓いすると共に、(社)鳥取青年会議所メンバーが、今後の活動に本記念誌を活用されることを念じて、あとがきとさせていただきます。



40周年ロゴマークコンセプト

(社)鳥取青年会議所が創立40周年を迎え、活動エリアである因幡15市町村と連携を取りながらその核となり、さらに21世紀を見据えた新しいまちづくりを「因幡市民」という意識の中で邁進していく姿が、誰にでも分かりやすく見取れるようにシンボル化しました。

因幡を中心として広がりゆくJCの活動をベースに、数字の40をモチーフにデザイン。

21世紀・未来へ向かって、因幡のパートナーシップを築きながら、新しいまちづくりに励むJCメンバーを「鳥」、21世紀に輝く近い未来の因幡を「太陽」、そして太陽の炎・輝きは因幡15市町村及び、そこに住む「因幡市民」を表します。

発行・編集(社)鳥取青年会議所 40周年実行特別委員会

委員長 瀧本 寛

副委員長 桶谷靖志

委員 笹尾茂美

// 石上晋一

// 太田栄市

// 山下浩久

// 中島則義

// 藤田豊博

// 中村俊介

// 江谷 功

事務所:〒680-0031 鳥取市本町3-102 商工会館別棟2F

TEL 0857-24-1638

FAX 0857-24-1608

URL <http://jc-tottori.com/>

印刷/日ノ丸印刷株式会社 デザイン/有限会社デザインバンク

〒680-0813鳥取市寿町915

〒680-0853鳥取市桜谷173-20



社団法人 鳥取青年会議所